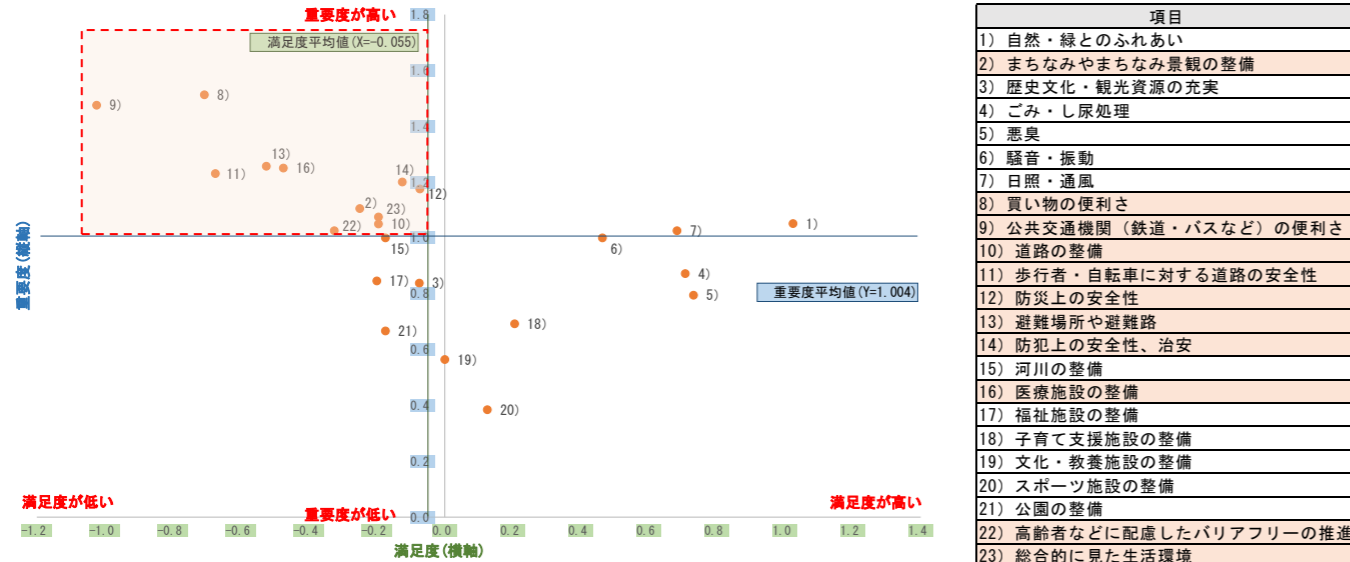


1. 市民アンケート・地域別説明会の意見等

1-1 市民アンケート結果（東郷地域のみ）

- 「居住地域における生活環境」では、平均より重要度は高いが満足度が低い項目として、「9）公共交通機関（鉄道・バスなど）の便利さ」、「8）買い物の便利さ」などの11項目があがっています。



- 「居住地域における現在の土地や建物の状況」では、「空き家が増えてきた」の割合（68.3%）が最も高くなっています。
- 「敦賀市の今後のまちづくりの方針」では、「人口が減ってきている集落においても安心して暮らせる環境整備を進める」の割合（18.4%）が最も高くなっています。

1-2 第1回地域別説明会における意見等

- 令和2年1月17日（金）に東郷公民館にて開催された区長会にて説明しました。参加人数：12名。
- 主な意見等は以下のとおりです。

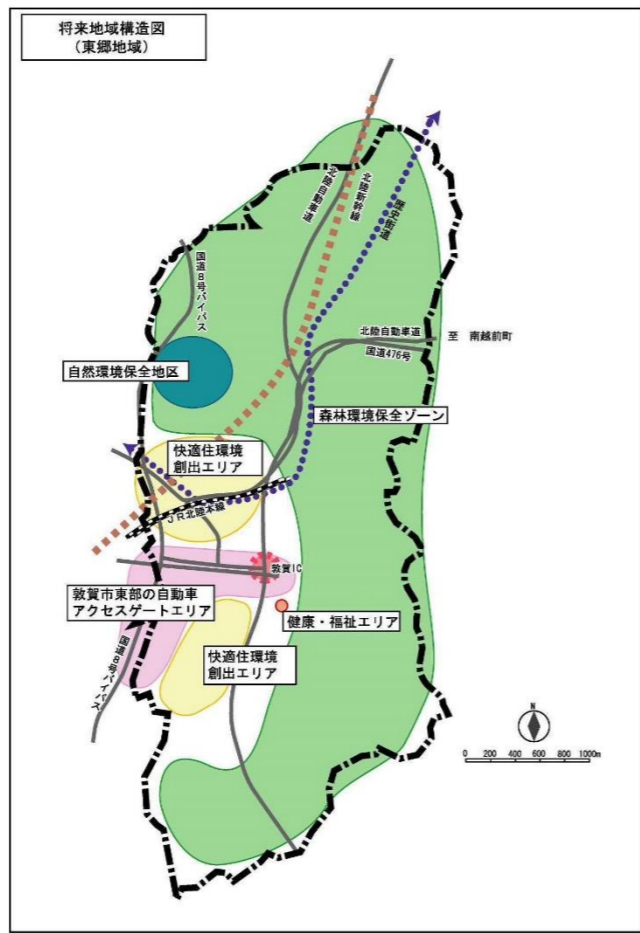
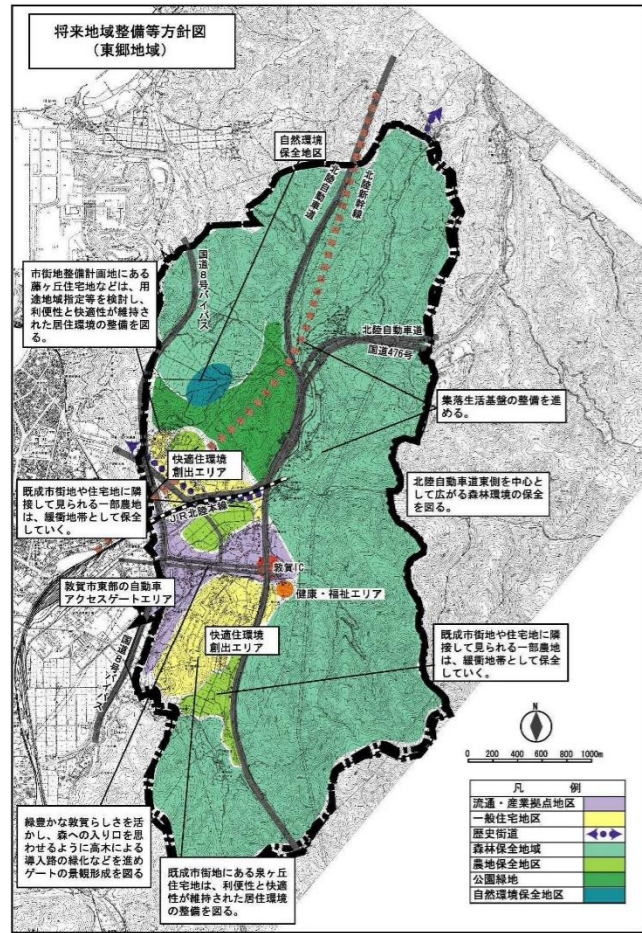
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・咸新小跡地を活用することで活性化。 ・リラポートを含めたトンネル温泉街の造成。 ・緑を残した住宅地の整備。 ・既成市街地にある泉ヶ丘住宅地について、地盤が弱いため住宅地として不向きであり、現在の公民館周辺を住宅地に考えた方がよい。
農地・森林	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作農地の活用、整備。 ・既存市街地や住宅に隣接して見られる一部農地について、水路の確保、農道の拡幅、高齢化による後継者不足の心配。 ・北陸自動車道東側を中心として広がる森林環境の保全について、市行造林化して、森林を整備する。
道路	<ul style="list-style-type: none"> ・国道476号の改良。
空き家	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家の管理。
人口減少	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化とともに空地が多くなり、若手の家族が減少し、子供の数も減少しているため、小中一貫後、東郷地区の過疎化が心配。

2. 現行計画の評価

- 平成21年度に改訂し、2020年をもって将来目標年次を迎えた現行計画について、市関係各課の実績をヒアリングし、達成状況を評価しました。

土地利用の方針 〈都市的土地利用〉	住居系土地利用	・泉ヶ丘、藤ヶ丘などの住宅地は、利便性と快適性が維持された居住環境の整備、充実を図ります。
	商業系土地利用	・敦賀インターチェンジ周辺部は、自動車による敦賀市への玄関口であり、沿道景観に配慮しながら、流通・産業業務用地を整備します。
	概ね達成	用途地域及び条例に基づく調整計画の用途規制による適切な土地利用。
土地利用の方針 〈非都市的土地利用〉	自然環境保全エリア	・北陸自動車道東部の森林緑地の保全を図るとともに、歴史街道等の資産を活かした、学習・散策空間とします。
	農地保全エリア	・既成市街地や住宅地に隣接して見られる一部農地は、都市の中の貴重な緑の空間として保全します。
	集落地エリア	・北陸自動車道東部山間に見られる集落地については、生活環境の整備、充実を進めます。
	概ね達成	伐採届の審査・指導による適正な森林の利用、松くい虫防除事業による森林の保全、旧北陸道（木の芽古道）の清掃管理、国の各種制度の活用による農地・農村の保全など。
環境等整備方針 〈都市緑地整備の方針〉	<ul style="list-style-type: none"> ・敦賀市の緑の骨格を形成する山裾緑地の保全を図ります。 ・一定のまとまりのある農地は、都市の貴重な緑空間であり、保全を図ります。 	
	概ね達成	伐採届の審査・指導による適正な森林の利用など。
環境等整備方針 〈景観形成の方針〉	<ul style="list-style-type: none"> ・敦賀インターチェンジから敦賀駅、敦賀港へ至る軸は、都市の骨格を形成し、シンボルロードを形成するものであり、都市の顔としての景観形成に努めます。 ・木の芽川沿岸の河川空間の整備を進めるとともに、橋詰めの広場などの景観づくりに努め、都市のアメニティスポットを形成します。 	
	達成	景観計画・景観条例による良好な景観づくりの推進。
環境等整備方針 〈都市環境形成の方針〉	<ul style="list-style-type: none"> ・国道8号東側を中心として広がる森林環境の保全を図ります。 ・地域に残るまとまった農地については、優良農地の環境を維持・保全することにより、相対的な都市環境の維持に努めます。 ・木の芽川の水質の浄化を図るため、河川の水質浄化施設や排水環境の改善を図るなど、清流を復活させる対策を検討します。 ・木の芽川をはじめとした河川の堤防や河川敷の改修を行い、アメニティ性と安全性の高い環境づくりを促進します。また、中池見湿地に残る湿地植物等の環境保全・活用に努めます。 ・急傾斜地等危険箇所指定区域は、その対策となる事業や工事の実施を積極的に行います。 	
	概ね達成	河川に堆積した土砂の浚渫及び河川敷の除草、中池見湿地の保全活用など。

● 現行計画における将来地域整備等方針図（東郷地域）



3. (1・2を踏まえた) 地域における現況と課題

- 敦賀 JCT（舞鶴・若狭自動車道）の開通により、高速交通機能が強化されました。
- 中池見湿地の環境保全・活用が必要です。【地元】
- 自然環境保全区域として指定されている区域は、今後も自然環境を保全していく必要があります。
- 空き家の増加がみられます。【地元】
- 土砂災害警戒区域（レッドゾーン）の指定箇所は用途地域の見直し等の対応が必要です。

4. まちづくりのテーマ・将来に担うべき都市機能

4-1 まちづくりのテーマ

自然と調和し、交通結節機能を活かしたまち

4-2 将来に担うべき都市機能

● **歴史漂う街道集落文化の継承**

敦賀市及び嶺南地域における高速交通の玄関口としての機能強化

＜基本的な考え方＞

- 敦賀 JCT の開通で高速交通の利便性が向上し、広域交流が促進されるようになったため、これを活かした敦賀 IC 周辺での新規産業の集積や強化が求められます。

● **自然環境の維持・保全**

豊かで貴重な自然資源の保全・活用

＜基本的な考え方＞

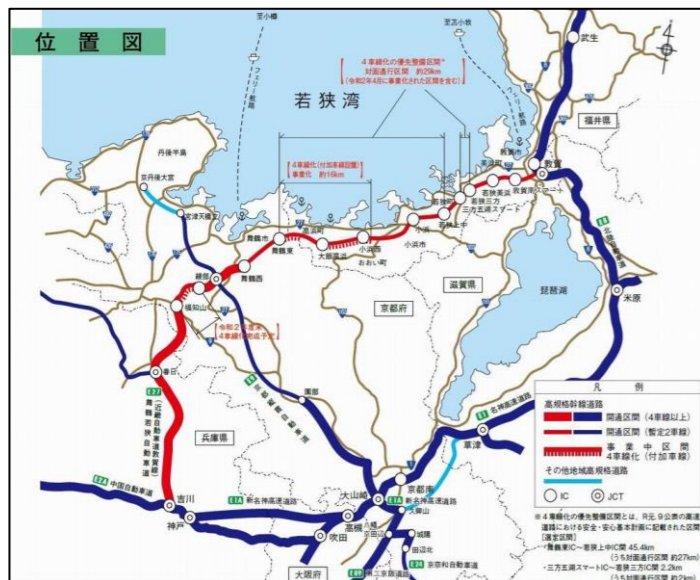
- 中池見湿地を保全するとともに、自然環境保全区域に指定されている自然ゾーン（主に山林）についても、これまでどおりに森林緑地の保全が必要です。

● **幹線道路沿いの土地活用**

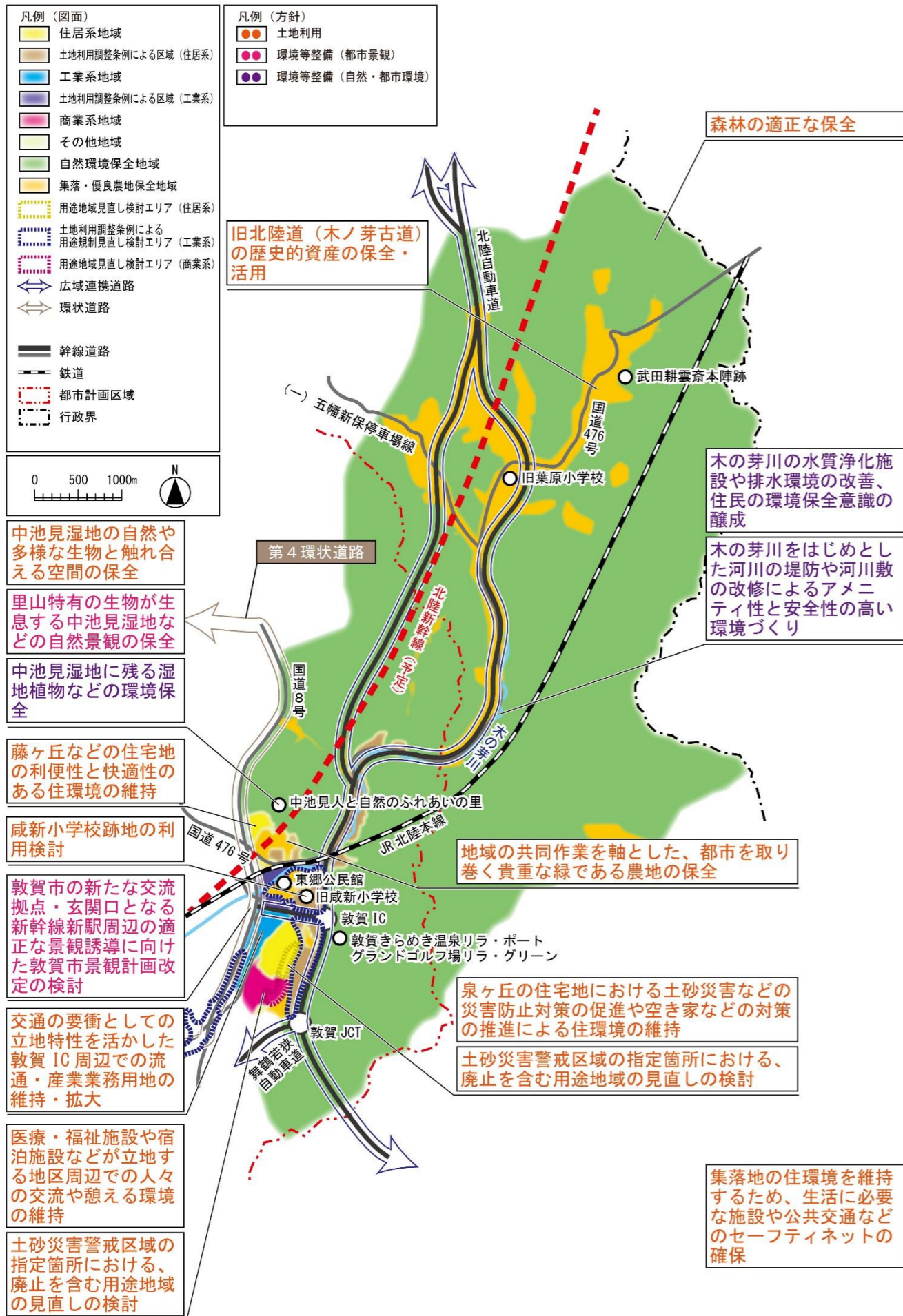
保養施設を活かした安心・安全な住環境の形成

＜基本的な考え方＞

- 泉ヶ丘において、土砂災害警戒区域（レッドゾーン）の指定箇所は用途地域の廃止を含めた見直し等が必要です
- 泉ヶ丘住宅地は、居住誘導区域外にあたることから、空き家対策も含め近接する保養施設を活用した住環境の維持が求められます。



5. まちづくり方針図と各種方針（案）



東郷地域 土地利用の方針



- 用途地域・条例による区域内**
- 住宅系地域**
 - 藤ヶ丘などの住宅地は、利便性と快適性のある住環境を維持。
 - 泉ヶ丘の住宅地は、土砂災害などの災害防止対策を促進し、空き家などの対策を推進しながら、住環境を維持。
 - 土砂災害警戒区域（レッドゾーン）の指定箇所は、廃止を含む用途地域の見直しを検討。
 - 角鹿中学校区内における4つの小・中学校の統合を受けて、威新小学校跡地の利用を検討。
 - 工業系地域**
 - 敦賀 IC 周辺は、交通の要衝としての立地特性を活かし、周辺環境に配慮しながら、流通・産業業務用地の維持・拡大。
 - 商業系地域**
 - 中の医療・福祉施設や宿泊施設などが立地する地区周辺は、住宅地などの周辺環境に配慮しながら、人々の交流や憩える環境として維持。
 - 土砂災害警戒区域（レッドゾーン）の指定箇所は、廃止を含む用途地域の見直しを検討。
- 用途地域外**
- 自然環境保全地域**
 - 森林については、今後も適正な保全を図るとともに、旧北陸道（木ノ芽古道）の歴史的資産を保全・活用する取り組みを継続。
 - 中池見湿地は、今後も自然や多様な生物と触れ合える空間として保全。
 - 集落・優良農地保全地域**
 - 農地については、国の各種制度などを活用しながら、地域の共同作業を軸に都市を取り巻く貴重な緑として保全。
 - 集落地の住環境を維持するため、生活に必要な施設や公共交通などのセーフティネットを確保。

東郷地域 環境等整備方針

- 都市景観**
- 北陸新幹線開業に向けて、敦賀市の新たな交流拠点・玄関口となる新幹線新駅周辺の適正な景観誘導を図るため、敦賀市景観計画の改定を検討。
 - 里山特有の生物が生息する中池見湿地などの自然景観を保全。
- 自然・都市環境**
- 木の芽川の水質の浄化を図るため、河川の水質浄化施設や排水環境の改善、住民の環境保全意識の醸成を図るなど、清流を復活させる対策を検討。
 - 木の芽川をはじめとした河川の堤防や河川敷の改修を行い、アメニティ性（住み良さ）と安全性の高い環境づくり。
 - 中池見湿地の環境やそこに残る湿地植物などの環境を保全し、今後も継続。

敦賀市都市計画マスタープラン策定に関する第2回地域別説明会（東郷地区） 開催結果

■開催概要

開催日	時間	場所	参加人数
1月28日（木）	19:00～20:30	東郷公民館	16人



■参加者からの意見等

	意見	回答
●全体構想の方針（案）		
土地利用の方針		
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・新港周辺エリアのコンテナ置き場の施設の敷地が将来的に足りないと思う。 ・国道8号周辺の利用などを含めた総合的な新港の計画はあるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛発の国道8号沿いなどの遊休農地や耕作放棄地を工業用地として活用していけないかという方針を掲げている。
市街地整備の方針		
コンパクトシティ	<ul style="list-style-type: none"> ・居住誘導区域に集約されることになると、東郷地域の葉原や新保といった地域はどういう位置付けになるのか。 ・一つの所へ集まるということは過疎化の懸念もあると思うのが、その辺りの考え方というのはどういうものなのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・立地適正化計画は、公共交通を使って、集約された都市機能を使っただけのようなネットワークを図っていくとしている。 ・現在、市民の多くが住まわれている居住誘導区域外については、マスタープランの中でも住環境を維持していこうということを記載している。 ・「コンパクトシティ・アンド・ネットワーク」というのは、居住環境保全区域で生活されている方についても、公共交通のネットワークをしっかりと確保して、一緒に生活をしていきたいという思いである。
●地域別構想の方針（案）		
土地利用の方針／住居系地域		
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・藤ヶ丘町は、現在バスが中まで入ってきてくれるが、今後、高齢者が増えていくので、交通手段をしっかりと確保してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の中で、交通の利便性を向上していく方針を掲げており、その実現のために関連する事業計画において推進していきたい。
移住・定住	<ul style="list-style-type: none"> ・敦賀・福井は大阪からの色々なアクセスが多い中で、泉ヶ丘はちょうど40年が経過し、土地を買われた方が高齢者になってきて、売り物件が出てきている。 ・より人口を増やすには、今から20年後、新幹線が大阪から敦賀に向けてくることを想定してやること。 ・そのために、大阪にアンテナショップのような情報拠点を設置することで、敦賀を色々な形でアピールする流れを検討してもらえないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、市では「移住・定住」といった政策も進められているため、マスタープランと連携していければと考えている。

	土地利用の方針／工業系	土地利用の方針／自然環境保全地域
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・駅裏開発の全体的なエリアと、農業用地の開発について明確にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市全体としては、駅西側から港へと向かう中心市街地のまちづくりを進めてきたので、今後も推進していく。 ・駅東側は、敦賀ICがあるという立地特性をこれからも活かす上で、物流や産業用地として維持・拡大をできればと考えている。
文化・観光	<ul style="list-style-type: none"> ・中池見の保全は賛成だが、あそこは今、お金がかかるためモノレールを止めている。 ・環境は改善するが、行く手段が止められている。裏から回れるけども、車椅子とかそういう方たちは行きづらい。 ・藤ヶ丘町の方から行くと急な勾配を上ることになるため、その辺が置き去りにされていると思った。 	—
文化・観光	<ul style="list-style-type: none"> ・松尾芭蕉が通ってきた東海北陸自然遊歩道が敦賀で消えているが、遊歩道～中池見～古道という歴史的な資産をつなぐ路線を計画的に考えていかないといけない。 ・名所旧跡はいろいろあるので、一体的な自然歩道を計画的にやってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木の芽古道は、現在、歴史資産を保全・活用していく取り組みを継続していこうという方針を掲げている。 ・点と点を結ぶような線がなかなか見えにくい部分があるが、今後も歴史資産を大切にしていこうといった流れである。
文化・観光	<ul style="list-style-type: none"> ・池河内は福井県の尾瀬ということで県外の方も非常に注目しているが、ここに記載されていないのはなぜか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・池河内も追記という方向で検討していきたい。
文化・観光	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史遺産（金ヶ崎の城跡、トンネル群など）や葉原の小学校の跡地などを20年後に活かさないか。 ・例えば、中池見の教育の場として、樫曲の上の里山を整備していただいて、里山巡りみたいな形など。 	<ul style="list-style-type: none"> ・葉原小学校や咸新小学校、そういった校舎の活用はこれから良い方法を皆さんと話し合いながら、手法として決めていくことを考えていくべきと思う。 ・マスタープランは将来像という形なので、具体的な案までは出せないが、自然や歴史、文化を活用しながら保全し、地域として活性化をしていくという将来像の考え方から、どのような手法を使っていくかということを考えていくことになる。
公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ・敦賀は海も山もあり、環境的には非常にいいので、ネット環境が整備されれば、都会から地方へ人が入ってこないか。 ・ネット環境をある程度備えている、葉原小学校が今度改修することを踏まえて、20年後のイメージをつくっていただけるとありがたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・流行りとして、ワーケーションという、都会の方が地方で仕事をしに来て、一定期間生活しながら仕事をするといったいろいろなやり方がある。

敦賀市都市計画マスタープラン策定に関する第2回地域別説明会（東郷地区）
開催結果

土地利用の方針／集落・優良農地保全地域	
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> 「公共交通のセーフティネット確保」とあるが、東郷地域が「これで暮らしやすいな」というところが見えない。 東郷地域には、買い物に行く場所がないため、交通手段の確保を考えてほしい。
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> 計画の中で、交通の利便性を向上していく方針を掲げており、その実現のために関連する事業計画において推進していきたい。 北陸新幹線の開業に合わせて、今、県において国道8号バイパスと駅を結ぶ敦賀駅東線の整備が進められている。 市では、敦賀駅東線から中方面へ延びる市道の計画が進められており、より東郷地域と中心市街地や新幹線駅との交通の利便性向上が図られると考えている。
環境等整備方針／自然・都市環境	
下水道	<ul style="list-style-type: none"> 泉ヶ丘エリアは、下水道エリアにも明記されているが、今自前浄化槽なので、早く下水道が整備されれば、より活性化するかと思う。 下水道の早期の接続を切望する。
下水道	<ul style="list-style-type: none"> 下水道課による計画としては、今後敦賀駅東側から順に進めていくといったところである。 計画では、下水道という言葉ではないが、排水環境の改善として記載させていただいた。
●その他	
総合計画	<ul style="list-style-type: none"> 総合計画の第6次と第7次の大きな違いは何か。
総合計画	<ul style="list-style-type: none"> 現在、第7次総合計画の作成が進められている段階で、内容については検討を重ねているような状況である。 総合計画の大きな方針をまちづくり、都市づくりの将来像に反映している。
地域別説明会	<ul style="list-style-type: none"> 総合計画の基本理念はすごくいいと思うが、今回集まっていた皆さんの中に、若い世代が加わっていないことが問題である。
地域別説明会	<ul style="list-style-type: none"> 回覧や広報つるが、RCNなどで市民に周知を行った。 一昨年の市民アンケートでは、18歳以上の男女を対象に無作為に配布し、年代ごとに均等にアンケートを集計している。 都市計画マスタープラン策定委員会では、若者の意見を取り入れるという思いから、駅前の福井大学原子力研究所の学生にも参画をしていただき、いろいろな分野・方面からの意見を審議して、計画の作成を進めている。
公共施設	<ul style="list-style-type: none"> リラ・ポートは現在休館中だが、いつ再開する予定なのか。 それをまた業者に丸投げをするのか、市の直営でやるのか。 県外のお客さまが入っていて観光施設として素晴らしいものであるし、市民の健康増進ということで非常に役立っていると思う。
公共施設	<ul style="list-style-type: none"> リラ・ポートに関しては、現在、ありかた委員会等々でやり方、再開に向けた手法を検討していると聞いている。 直営か、以前のような指定管理者による運営かということは、まだこれからだと聞いている。

現行計画評価	<ul style="list-style-type: none"> 藤ヶ丘町は、住宅地の利便性・快適性の維持について取り組まれたと思うが、実際のところは、買い物もいけない高齢者が増えてきたとか、医療機関もないなどがある。 インフラ関係について、現状をみると地域としては評価されていない部分もある。 どういう形で評価されたものか。納得いかない部分でもある。
	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの達成などの状況、評価の選択については、あくまでも関係各課の裁量で示させていただいている。 住居系の土地利用については、住宅と工場が混在しないような建物の誘導・規制を図った上で、「概ね達成」という形で評価をした。